

I 経営の重点に関わること (○成果 ●課題) 評価段階 (A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない)

| 1 教育・保育目標 | 2 重点目標 | 評価指標 | 評価 | 園評価 | 関係者 | 園関係者評価委員から | 改善策 (来年度の具体的な取組目標等) |
|------------|--------------------------------|---|--|-----|-----|--|---|
| 心豊かでたくましい子 | 「やってみよう」「もっとやりたい!」自分で気づいて動き出す子 | 【自分で考えて遊ぶ子】子ども達が、自分から好きな遊びや、やりたいことを見付け「やってみよう」「もっとやりたい!」という気持ちをもって遊んでいる | ○自分たちで必要なものを選び、遊び始める姿が見られる。○自分で考えて、持続して遊んでいる子ども多い。 ○フラフラしている子がほとんどいなくなった。○進んで取り組んでいる姿がある。○継続して好きな遊びがある。 ●保育者が抜けると遊びが途切れることもある。●遊びが見つからない子は保育者に遊ぼうと求めてくる。 ●「やって」と大人を頼る姿もまだ多い。大人にやってもらった方がきれいにできる。(自信がないから大人に依存?) ●子どもの要求に保育者が受け身になり過ぎてはいないか?そこからどうするのか考えて支援できているのか。 ●友達と遊びたくても、声をかけられない子がいる。●何をしたいか決められずフラフラしている子もいる。(なかなか見つけれられない子) ●子どもも主体ではない遊びは長続きしない姿があった。 | B | B | ・節分に向けての相談や小学校との交流など、子どもが考えて思いを表現する場がつけられていると思う。 | ・子ども達だけで遊び続けられるような遊びの提案ができるような保育者のスキルを上げていく。 |
| | | 【自分の思いを出す子】子ども達が自分の思いを言葉やしぐさで保育者や友達に伝えている | ○思うようにならない時でも「～したかった」と自分の思いを主張できるようになっている。(園庭・室内どちらで遊ぶか選択している) ○自分から働きかけて、友達と一緒に遊ぶ姿が見られる。 ○少人数で安心して過ごせるからか、その子なりの表現で思いを伝えている子が多い。 ○友達の前で発表できることが多くなっている。○「こうしたらどう?」と意見がいろいろ。 ●言葉と共に手が出てしまうこともある。●自分の思いをどうしても通そうとする子やぶつかることがある。 ●保育者や友達に遠慮や気を使っている子もいる。●もじもじして思いを伝えられない子もいる。●言葉やしぐさで伝えられず他の方法で伝えようとする子もいる。●相手の嫌がることをわざとやったり悲観的な気持ちをもったりする子がいる。 | A | A | ・その場面だけでなく、子どもの表れを積み重ねて見ていくことでわかることがある。 | ・子どもの思いをしっかりと聞き、自分が受け入れられているという安心感がもてるようにする。 |
| | | 【わくわくとときめく子】友達と思いを伝えあい、共感したり自分と違う考えに触れる中で友達のように気づいている | ○泣いている子に「どうしたの」と頭をなでながら寄り添うこともあり、優しくされて気持ちが落ち着くこともある。 ○共感できる仲間で遊び、相手の思いを受け入れながら子ども同士で遊んでいる。 ○クラスの違う友達とも遊び、ぶつかりながらも思いを伝え合う楽しさを感じている。 ○友達のすごい所に気づき、「すごいね」と褒めたり、真似してみたいと言ったりする姿がある。 ○行事を通してグループで思いを出し合って刺激を受けながら取り組む姿が見られた。 ●共感できず、思いをぶつけあう子もいる。●自分と相手の思いの違いに自分から気づくことは難しい。 ●悪い所ばかりに目がいきやすい。 ●思いを聞き入れにくく、友達のように気づく所までできているかは不明。 ●語彙が増えたことで言われたことを一方的に解釈してしまう。 | B | B | 先を見通して、「来年はどうなっているのかな」と想像しながら関わっていく。 | ・どうすればトラブルにならなかったか話し合う機会をもち、自分たちなりのルール(ピンポイント)を決めて守れた時には褒め合い、できなかった時には、また話し合ってみる。(保育者はアドバイザー) ・思いがぶつかる場面こそ大事にして、思いを伝える仲立ちを保育者がしていく。 ・少人数ゆえに、友達の固定概念がつきやすいのかも。よさに気づき、いろいろな思いがあるから関わりが楽しめるように援助したい。 |

| II 各領域に関わること | | | 評価 | 園評価 | 関係者 | 園関係者評価委員から | 改善策 (来年度の具体的な取組目標等) |
|-----------------|----------------------------|--|---|-----|-----|--|--|
| 1 とも園における教育及び保育 | (1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育 | 教育課程を意識し、つながりのある教育・保育を実施している | ○次の学年に向けてステップアップできる活動を遊びの中に取り入れている。 ○つながりのある保育ができている。○異年齢で散歩に出掛けたり、発表会を見たりして関わる場が出てきている。 ○公開保育の時に事前に教育課程を見ることで保育計画が繋がった。 ●生活習慣の引継ぎが不十分なところがある。●乳児・幼児の関わりが少なく感じる。●日頃から交流ができるといい。 ●乳児幼児で遊びがぶつかり合わないようになると関わる場が限られてしまう。 | B | B | ・中学校との交流も園外保育と組み合わせで行ってはどうか。 | ・生活習慣について、次の学年に行くまでに出来てほしいことを把握しながら計画に盛り込む。 ・一緒に散歩に出掛けたり、園庭での関わりのチャンスを活かしていく。 ・「できた」という経験から自信をつけていく。 |
| | (2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮 | 一人一人の家庭環境や生活リズムに合わせて、安心して過ごせるようにしている | ○個々の特性・各家庭の生活リズムに配慮して受け入れている。 ○いろいろな子がいて難しい中でも個々の生活に合わせて心がけている。 ○早寝番の環境や玩具について見直しを行った。 ●様々な家庭環境が増え、集団生活へスムーズに入れるように工夫しているが難しい。 | A | A | | ・療育に通う子など、クラス全体の活動が不規則になりがち。 ・職員間でフォローし合って、進めていく。 |
| | (3)環境を通して行う教育及び保育 | 日々の遊びの過程を見取り、子ども達が自分からやりたくなるような環境構成を工夫している | ○子どもの興味や発達の様子を見ながら、玩具の提供や教材研究を行っている。 ○前日からの遊びの継続のためにおきつつ、ちょっと変わった環境もプラスされることで、自ら心を動かして遊びを楽しむ姿が見られる。 ○子ども達の興味・関心の「旬」に合わせて玩具や環境を用意している。 ○環境を整えたことで友達や保育者を見て自分もやってみようとする子が増えた。 ●園庭環境の工夫をもっとできたかもしれない。●砂場の玩具に割れたり破損したりしている物が見られた。 | A | A | ・今年度は職場体験で2名の中学生が来園した。家庭科の授業で関わる時があり、保健師さんも参加する。 | ・必要な物、何をしたいのかなどを子ども達と相談し、保育者主導にならないように子どもと環境を整えていく。 必要に応じて、園庭の使用時間を決めて使ってもいいのかもしれない。 ・もう少し遊び方について話し合いを深めたい。週会議のやり方を検討したい。 ・保育者の思い(こうなって欲しい)だけでなく、実態から子ども達と環境を作っていく。 ・園庭遊びの最終チェック(土と砂の入った鍋、木の実や落ち葉、砂場の道具など)片付け忘れ。 ・準備しすぎているかの見極めをする。 |
| 2 安全管理・指導 | (1)事故防止・防災 | 災害や事故時の役割分担を理解し、保育者も子どもも的確な行動ができるようにしている | ○減災に関する研修を園全体で共有した。 ○毎月避難訓練を実施。給食室内での動きや連携が上手くとれるようにしている。 ○年間で様々な状況に応じた訓練を計画的に実施。園児・職員共に避難の仕方が身に付きつつある。 ●避難訓練の反省を共有したい。●安全な遊び方について、職員間で共有できていない所がある。 ●保育者がどう動いたらよいか迷うことがある。(これでいいの不安が残る)●火事の煙よけにハンカチの持参をもっとよびかけたい。(幼児) | A | A | ・関わると乳幼児の育ちがわかり、関わり方も変わってくる。 | ・安全術について、今一度職員間で共通理解する。 ・疑問点を共有する。研修会に参加する。 ・避難時の給食室外の動きや乳児組へのフォローについては確認をまたしたい。 ・気づいたら廃棄するが、素材など砂場で使えるものか検討して使う。割れやすい物は別に入れるなど配慮する。定期的に点検する方法を考える。(いつ、誰が、点検表など) |
| | (1)健康教育の充実 | 給食職員と連携して子どもが食べることを楽しんだり、意識をもって食に関わる経験ができるようにしている | ○子どもの食べ具合について伝え合い、食が進む工夫をした。 ○園で収穫した野菜を使ったミニピザ作り、かみかみ指導、出汁の飲みくらべ、スイーツポテト作りを実施。行事にちなんだ盛り付けを工夫するなど、特別感のある給食提供ができた。(食育を通して食に関わる経験ができている。育てた野菜を食べることで食育への意欲が高まった。)○季節や行事に合った献立で楽しんで食べることができた。 ○献立会議で給食室職員と関わるのがいい機会になっている。 ○「無理に食べさせない」ことを人権研修で周知できた。 ●給食室の職員と子ども達の関わりを増やしたい。●食育のつどいも各クラスで行う時も取り入れたい。 | A | A | ・普段の中学校に遊びに行くと、小さい子の声が聞こえるだけでも中学生の意識が変わると思う。 | ・日常的に食事の様子を見たり、会話する機会を増やし子ども達との交流を増やす。 ・日頃から給食の様子を知らせたり、クラスに見に来てもらったりして作ってくれる人へ感謝の気持ちに繋げる。 ・保護者にも食育について知ってもらうために、16:30までにして飲んでもらってはどうか? ・家庭にも生活習慣などについて発信していく。 |
| 4 特別支援教育・保育 | (1)支援体制づくりの推進 | 全職員で個々の発達を理解、共有し一人一人に合った関わりをしたり、必要に応じて専門機関と連携を図っている | ○今、どんな対応をしているのかを直接聞いたり、ケース会議の内容を紙面でも出したりしていてわかりやすい。 ○語る会やクラスの話し合いでクラスの様子や個々の子どもについて共有しやすくなった。 ○専門機関の方が定期的に見に来てくださっている。(カブトムシクラブ月2回で連携ができている。) ●乳児組のためなかなか関わる場がなくて様子がわかりにくい。 ●全職員で情報の共有ができているとは言えず、もっと他クラスを見る機会があってもいい。 ●気になる子への支援などみんなで共有できる場があるといいと思う。 ●加配がついていない気になる子について、加配につなげて行くべきか迷う。 | B | B | ・最近学区別の枠がゆるくなっていて、広範囲の学校に通学するようになっていて、いろいろな学校と交流することも大事かもしれない。 | ・ケース会議の回覧や語る会で子どもの実態がわかりやすくなったため、続けて欲しい。 ・今月の気になる子と決めて手立てや課題について話し合うことで担任のヒントになるのではないかな。 ・参観する機会や情報交換する時間を増やす。 ・早寝番にかかる支援児の情報の共有からしてはどうか。 ・サポプラの活用(書いていない人が気軽に見れるようにする) ・支援研修に参加したことを資料の回覧以外にできることを探す。 |
| | (1)組織体制の充実 | 担当園務分掌を各自意識し、企画、提案、計画に基づいた遂行、協力して教育・保育を進めている | ○分掌の役割を各自が自覚し、周囲も協力していた。 ○時間差で会議に参加するなど、情報の共有が出来ている。 ●変更内容など職員への伝達が遅れてしまう。フリーの職員にホワイトボードや連絡ノートで知らせ、確認する。 | B | B | ・学校に慣れる、中学生などお互いに様々な年齢の人と触れ合い、慣れることが大切。 | ・年度初めに各分掌の仕事内容について共通理解する機会があればイメージしやすいと思う。 ・引き続きコミュニケーションをとり、気になったことを声を出して共有していく。 |
| 6 研 修 | (1)研修体制の充実 | 全職員が公開保育や園内研修の中で、意見を出し合い、研修テーマについて学びあっている | ○園内研修の事前準備が出来ていて、研修に参加しやすかった。○発言しやすい雰囲気在学习中になっている。 ○多くの意見が反映されている。○研修報告や公開保育に参加するなど、資質向上の場がある。 ●研修テーマの周知が全職員が理解できていたかという点、周知不足かもしれない。 | A | A | | ・研究保育以外での保育や子どもの育ちについてなど、話し合えると保育の質が高まると思う。 ・もっと気軽に保育を見合う日を作ってはどうか。 ・保育で大切にしていることを共有できる工夫をしたい。実技研で得意なことを職員間で伝達したい。 |
| | (1)教育・保育環境の充実 | 季節や発達に応じた遊びに合わせて「またやりたい」と思えるような教材や環境を整えている | ○乳児は散歩に出掛ける機会が多くてた。○廃材や段ボールが子どもの発想で使えるようになっている。 ○季節を感じられる行事や遊び、発達に応じた遊びが楽しめるような環境が工夫されている。 ○定期的な環境の見直しと、特に手作り玩具を増やしている。 ○自分で選べる環境(レベルがある)を用意し、とことん楽しめるように工夫している。 ○子どもの姿や遊びを細目に共有して「またやりたい」の声に合わせて環境を用意した。 ●暑くて長い夏だったため、屋外での活動が十分できなかった。 ●子どもが作ったものなどの管理が難しい。●環境の変化があまりなかった。 | B | B | ・動物園のボランティアで「友の会」として手伝いに行った経験を今でも覚えている。イベントを主催する側としての経験もできた。様々な場で多くの経験ができると思う。 | ・子どもが作った物を週末に持ち帰るなど、定期的な整理を行う。 ・子ども達と再構成していける支援と環境の工夫をする。 |
| 8 家庭との連携・協力 | (1)家庭教育への支援機能の充実 | ICTを活用して子ども達の遊びや生活の様子、園の取り組み等を保護者にわかりやすく伝え、子どもの育ちを共有している | ○コドモンで写真とコメント付きで情報伝達が分かりやすくてできている。 ○コドモンで個々の様子を伝え、子どもの育ちを共有した。 ○コドモンの配信が本格化し、園の様子がより伝わりやすくなった。 ○各家庭の状況に合わせて、紙でお知らせした方がよい家庭への対応もできている。 ●毎日の撮影で「この子が映っていない」「顔が写りにくい」など難しさを感じる。 ●「見ていない」「忘れていた」などの保護者の声聞き、伝達が行き渡っているか不安。 | A | A | ・学校に慣れる、中学生などお互いに様々な年齢の人と触れ合い、慣れることが大切。 ・ICTでできることが増えたため、どう活かしていくか検討していく。 | ・ICTを活用しつつ、紙媒体も必要に応じて活用しながら園の取り組みがより伝わる工夫をしていく。 ・保護者に事前にそのことを承ってもらえるか確認していく。 ・ICTでできることが増えたため、どう活かしていくか検討していく。 |
| | (1)近隣の園との連携 | 近隣の小学校や園の公開保育や公開授業を参観したり、訪問しあったりして交流を図っている | ○八幡こども園との交流(散歩など)、西豊田小の見学などで交流できている。 ○交流を子どもたちが楽しみにしている。もっと増やせるかもしれない。 ●年長児が主に交流しているが、他の学年も機会があるとより親近感が感じられると思う。 | A | A | | ・年長児以外にも近隣園と交流する機会があると嬉しい。 ・まだ行っていない所を開拓していきたい。 ・早めに小学校と連絡をとり、日程を決めたい。 |
| 10 地域との連携 | (1)信頼される園づくりの推進 | 地域の自然や行事に参加する機会をもち、地域に親しまれる園になっている | ○八幡こども園や近隣の神社や店舗にも出掛け、近所の人に挨拶や会話をしながら交流がもてた。 ○神社への参拝に行くなどもしている。 ○いきいき教室・おしゃべりサロンなどで地域の人と触れ合う機会がもてている。 | A | A | | ・近所の方で特技のある方などを園に招き、昔の遊びなど教えてもらう機会があると親近感がわくかもしれない。 ・まだ行っていない所を開拓していきたい。 ・散歩マップの継続、暑さ、寒さを見越した年間の散歩計画をする。 |